

災害時における障害のある人への支援について考えるフォーラム概要

- 1 日時：平成24年12月16日（日） 10：30～16：00
- 2 場所：千葉県教育会館1階大ホール
- 3 フォーラム次第
 - (1)【基調講演】

テーマ：「あと少しの支援があれば」
講師：福島県点字図書館館長 中村雅彦 氏
 - (2)【被災地からの報告】
 - ①はまなす鍼灸治療院 院長 佐藤明 氏
 - ②南三陸町愛の手をつなぐ親の会 会長 千葉みよ子 氏
 - (3)【シンポジウム】

テーマ：「障害のある人が地域で安全・安心に暮らしていくために」
《シンポジスト》

 - ① 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会福祉経営支援部
いわて障がい福祉復興支援センター副所長
齊藤 穰 氏
 - ② 特定非営利活動法人さぼーとセンターぴあ代表理事
青田 由幸 氏
 - ③ 社会福祉法人千葉県社会福祉協議会地域福祉推進部副部長
川上 浩嗣 氏
 - ④ 旭市社会福祉課
渡辺 輝明 氏

《コーディネーター》
国際医療福祉大学医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科長
教授 小林 雅彦 氏
千葉県健康福祉部障害福祉課長
山田 勝土（サブコーディネーター）

4 フォーラムの概要

(1) 基調講演（中村雅彦氏）

- ・ 東日本大震災で亡くなった障害のある方の事例について
- ・ 避難所や仮設住宅の状況について
- ・ 放射線被害について
- ・ 東日本大震災を振り返っての課題について
- ・ 地域のつながり合いの重要性について

(2) 被災地からの報告

ア 佐藤明氏の報告

- ・ 東日本大震災直後の様子から避難所生活について
- ・ 借家への引っ越しと「はまなす鍼灸治療院」再オープンについて
- ・ 天災から学んだことについて

イ 千葉みよ子氏の報告

- ・ 南三陸町の被害状況について
- ・ 福祉作業所の子ども達の避難生活について
- ・ 現在の南三陸町の状況について

(3) シンポジウム

ア 各シンポジストの報告

(ア) 川上浩嗣氏

- ・ 千葉県自立支援協議会の検討状況について
- ・ 障害者、地域社会、行政機関が行うべき準備、対策について。

(イ) 齊藤穰氏

- ・ 岩手県障がい復興支援センターの活動について
- ・ 避難所運営における課題について

(ウ) 青田由幸氏

- ・ 南相馬市の被災状況について

(エ) 渡辺輝明氏

- ・ 旭市の被災状況について
- ・ 旭市における現在の取組について

イ 質疑応答

(ア) 情報を共有するにあたってのルールや歯止めの必要性について

○青田由幸氏

- ・ 個人情報とは区別なく全部出すということではなく、災害の程度や状況によって、整合性をとっておく必要がある。また、個別支援計画も災害規模によって違ってくるため、それらを平常時に決めておかなければならない。
- ・ 個人情報を出したくないという方も含めて集まって話をしないと、要援護者の方が納得できる仕組みを作ることはできない。
- ・ 要援護者の範囲は災害や時間によって異なるため、要介護度だけでなく、もう少し幅広く考えなければいけない。

○小林雅彦氏

- ・ 個人情報保護条例は、個人情報を隠すためのものではないため、善意の人が使うのはいいが、簡単に出す性質のものではなく、そこには一定のルールなり歯止めが必要となる。出す対象や状況を平常時から決めておかなければならない。

(イ) 避難所運営の決定方法について

○斉藤穰氏

- ・ 陸前高田市では、避難前に自治会や町内会活動をされていた方が中心になって避難所の自治会が立ち上がり、そこで行政では決めない細々したルールを決めていた事例があった。

○青田由幸氏

- ・ 南相馬市でもほとんどの避難所で自治会があり、そこでルールを決めていたので、避難所が画一的ではなかった。自治会が良いところであると、避難所で良いコミュニティが出来上がって、高齢者や障害者が避難所にずっと残っていたケースも多く、中にはコミュニティごと仮設住宅に移行したケースもあった。

(ウ) 改定した避難支援の手引きやマニュアルの発信方法について

○山田課長

- ・ 災害現場で対応する市町村に対しては、防災セクションからの周知に加え、福祉セクションとしても県内市町村への会議等でマニュアルに基づく対応を働きかけるとともに、千葉県自立支援協議会の成果として、広く県民の皆様に周知、広報していきたいと思っている。

ウ まとめ（障害のある人が地域で安心・安全に暮らしていくために）

(ア) 川上浩嗣氏

- ・ 地域のコミュニティをいかに再生・構築していくかに尽きる。災害時要援護者の方々のネットワークを考えていけば、現在顕在化している孤立

死や福祉課題、消費者被害の問題などの解決策にもなってくると思う。阪神大震災はボランティア元年と言われるが、東日本大震災ではコミュニティ再生元年にしたいと考えている。

(イ) 齊藤穰氏

- ・ 岩手県からの教訓だが、災害時要援護者の支援体制構築にあたっては、支援する方の命を守ることでも忘れないで欲しい。東日本大震災では民生委員が30人くらい犠牲になった。
- ・ 障害のある方の日頃の社会参加が災害時に命を結ぶ。障がい福祉復興支援センターの被災障害者の実態調査では、7割から8割が近所の方に助けていただいたという結果が出ている。また、震災後の支援について、当事者団体に所属していたおかげで支援を得られたという話もある。日頃、地域や当事者団体とつながっておくことが災害時に非常に有用である。

(ウ) 青田由幸氏

- ・ 最後に福島の現状をお話する。南相馬市では7万5000人の人口のうち、4万5000人が戻ってきている。まだ避難している3万人のほとんどは子どもさんとそれを抱えた家族の方で、仕事でお父さんだけが帰ってくる家族が多い。また、医療・福祉の現場は子どもを抱える女性が多くを担っていたため、病院も半分しか開けられず、福祉もいっぱいいっぱいな状況になっている。これから福島がどういった道を歩んでいくのか分からないが、たくさんの応援が励みになっている。福島はまだ終わっていないということを是非忘れて欲しくない。

(エ) 渡辺輝明氏

- ・ 要援護者台帳の関係で話があったが、行政の方で対応している立場としては、集めた時が最新の情報であって、それを絶えず更新できるようにしようと取り組んでいるところだが、毎月、毎週の更新は無理であるので、住民基本台帳に表れない、要援護者の勤務先や一時的な入院等の状況がわかるキーパーソンになる方の電話番号を備考欄にいれて、緊急時の安否確認に使えるような形をとればと考えている。

(オ) 小林雅彦氏

- ・ 千葉の中で障害のある人をどう安全・安心にさせていくかについて地域や行政で行うことは様々あると思う。そのことともう1つ、これだけ大きな災害からまだ2年経っておらず、現在進行形で支援を必要としている方々がまだまだいることを決して忘れることなく、出来る範囲の支援をこれからも行っていくということを皆さんにもお願いしたいし、私もやっていきたいと思う。

「災害時における障害のある人への支援 について考えるフォーラム」 アンケート集計結果

1 アンケートについて

平成24年12月16日（日）に開催した本フォーラムにおいて、来場された方にご協力いただいたアンケートを集計しました。（回答数63）

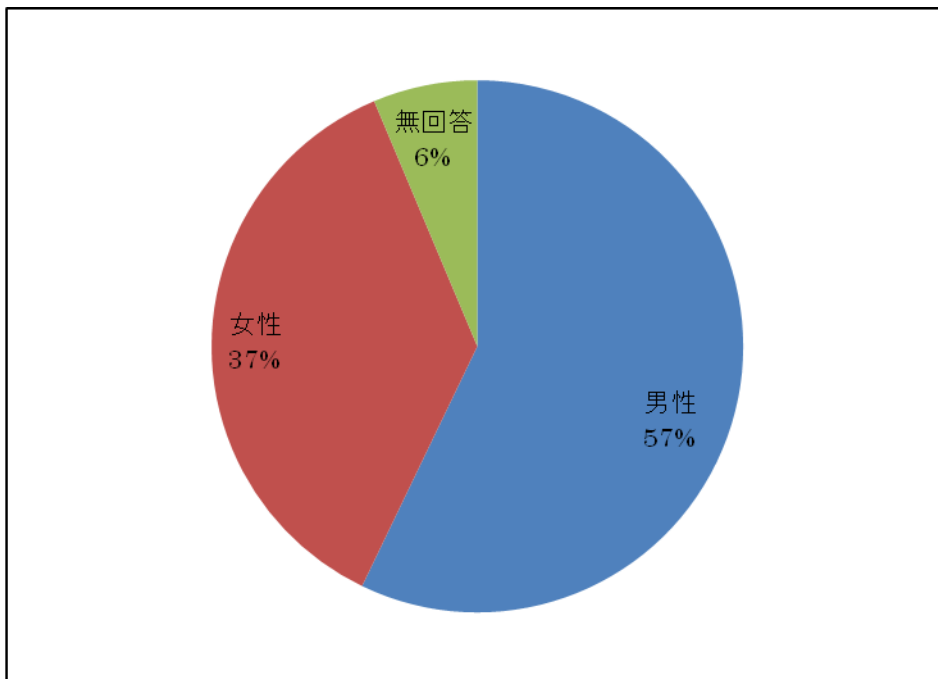
2 アンケートの項目

問1	ご自身について
(1)	性別
(2)	年齢
(3)	障害の有無
(4)	区分
問2	フォーラムの評価
(1)	「基調講演」の内容について
(2)	「被災地からの報告」の内容について
(3)	「シンポジウム」の内容について
(4)	フォーラム全体として
問3	災害時に不安に感じることはありますか
問4	災害時に支援を期待する人は誰ですか
問5	日頃から行っている防災対策はありますか
問6	その他、ご意見・ご感想

問1 ご自身について

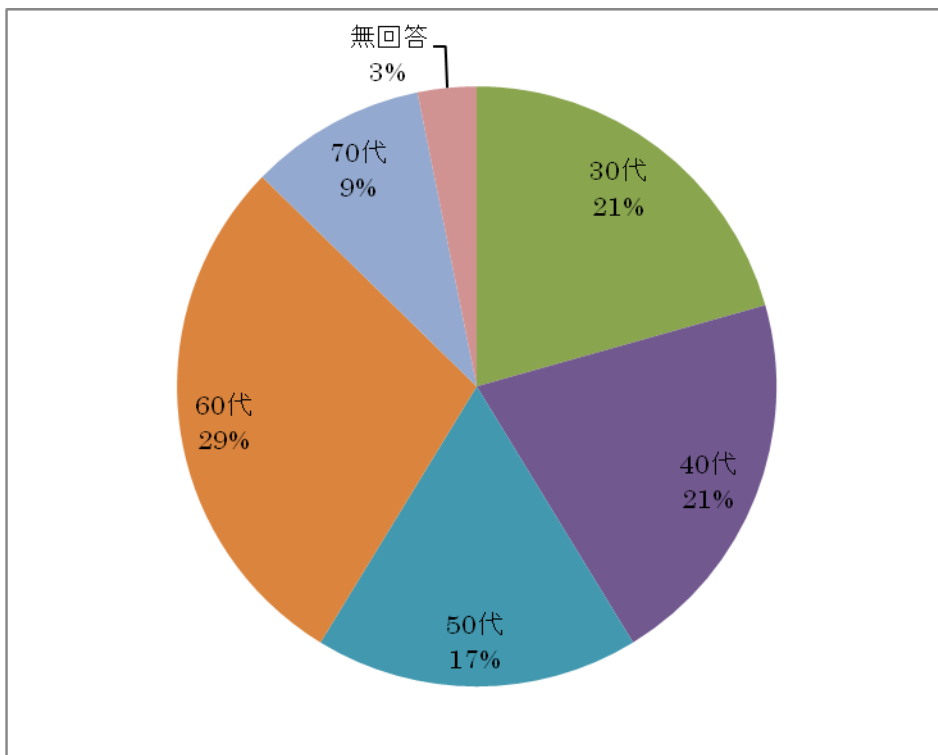
(1) 性別

男性	女性	無回答
36	23	4



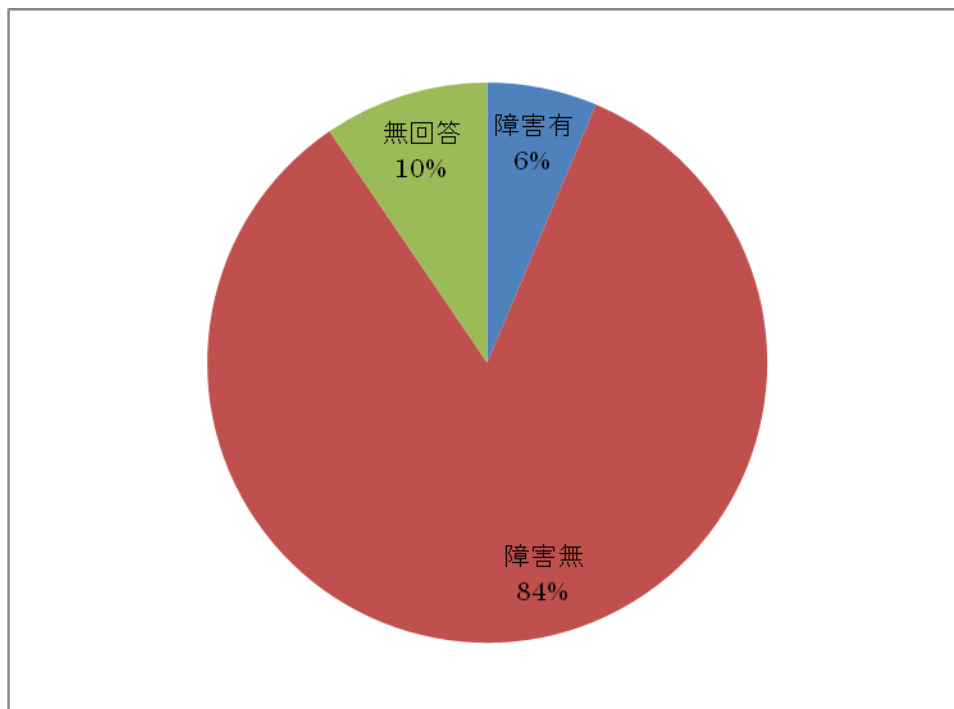
(2) 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
0	0	13	13	11	18	6	2



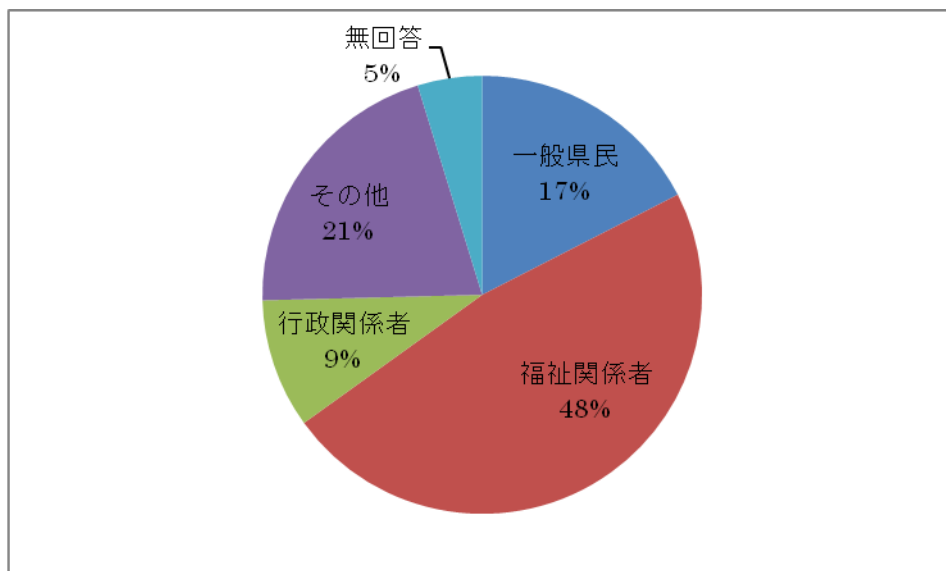
(3) 障害の有無

障害有	障害無	無回答
4	53	6



(4) 区分

一般県民	福祉関係者	行政関係者	その他	無回答
11	30	6	13	3



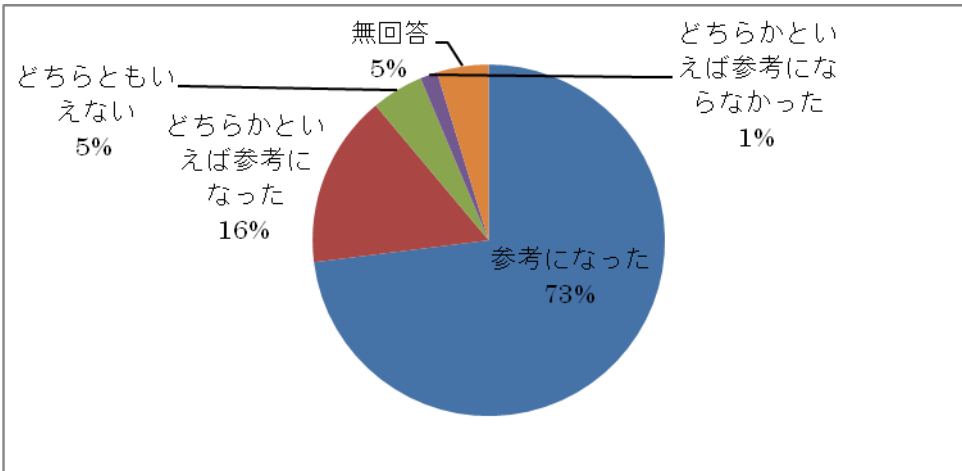
[その他の主な区分]

- ・ 障害児の親
- ・ 特別支援学校教員
- ・ 自主防災組織

問2 フォーラムの評価

(1)「基調講演」の内容について

参考になった	どちらかといえば参考になった	どちらともいえない	どちらかといえば参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
46	10	3	1	0	3



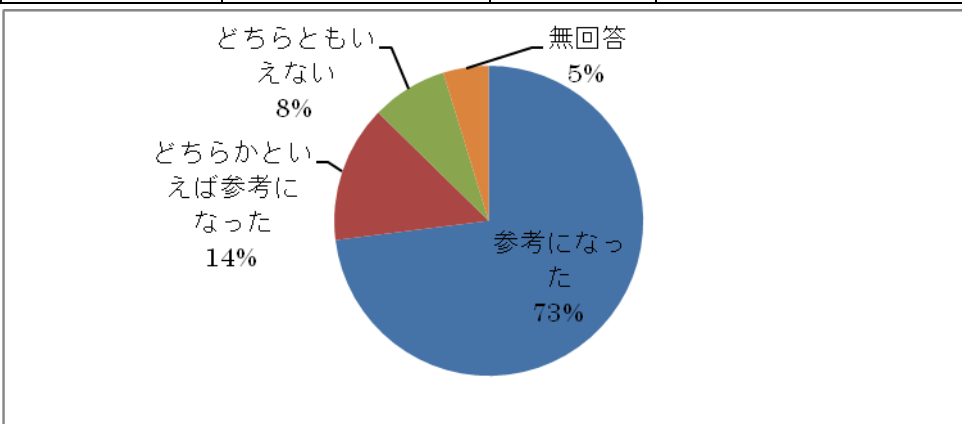
※89%の方が「参考になった」または「どちらかといえば参考になった」と回答。

[主なご意見・ご感想]

- ・地域コミュニティなくして要援護者支援はないことを改めて確認できた。
- ・今現在、災害前に必要な社会資源が何なのか、考えさせられた。
- ・今後震災があった時への事前の準備や避難時の近隣への配慮の重要性など改めて再認識させられた。
- ・障害者への支援についてもう少し具体的な手段・方法が知りたい。

(2)「被災地からの報告」の内容について

参考になった	どちらかといえば参考になった	どちらともいえない	どちらかといえば参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
46	9	5	0	0	3



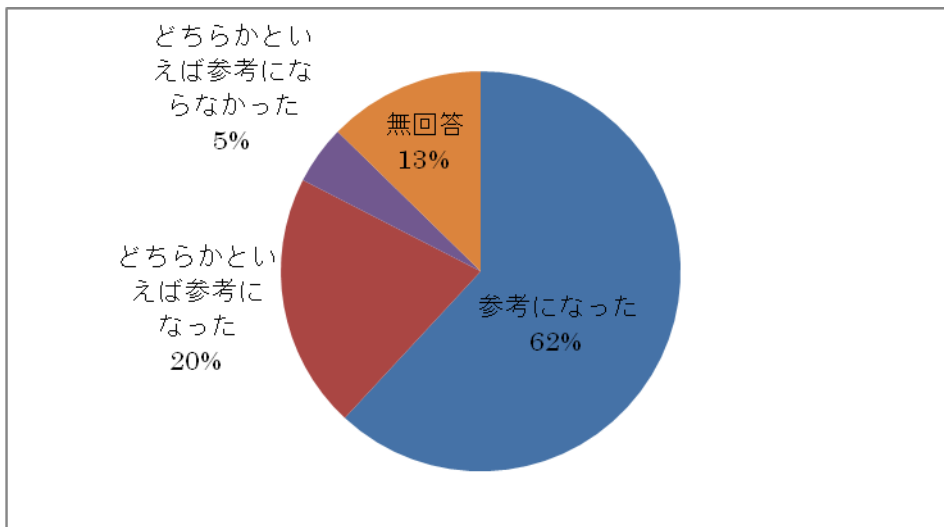
※87%の方が「参考になった」または「どちらかといえば参考になった」と回答。

[主なご意見・ご感想]

- ・直接被災にあった人の話はとても胸に迫るものでした。お話の内容を参考にして自分たちの地域の防災に役立てていけたらと思った。
- ・同じ障害を持った方と仕事をしている身として、実際に自分だったらどうするかという事を改めて考えさせられた。

(3) 「シンポジウム」の内容について

参考になった	どちらかといえば参考になった	どちらともいえない	どちらかといえば参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
39	13	0	3	0	8



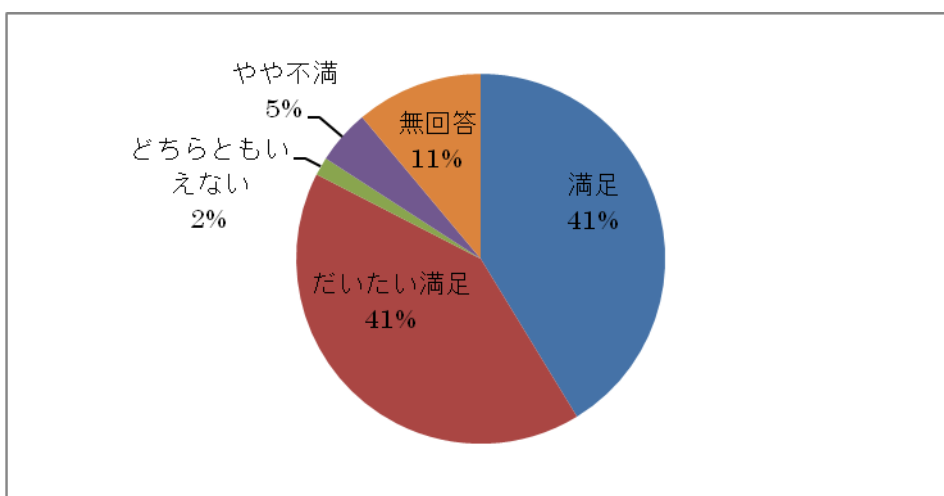
※82%の方が「参考になった」または「どちらかといえば参考になった」と回答。

[主なご意見・ご感想]

- ・ 行政的取り組み、当事者の状況、地元（地域）の状況…と色々な角度で災害について考えることができた。
- ・ 行政の方々の取り組み、何が問題点かが浮き彫りにされ課題として参考になった。
- ・ 既に議論がなされていることの話が多く参考にならなかった。支援をする側の状況を全くと言っていいほど検討していないことが不満。

(4) フォーラム全体として

満足	だいたい満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
26	26	1	3	0	7



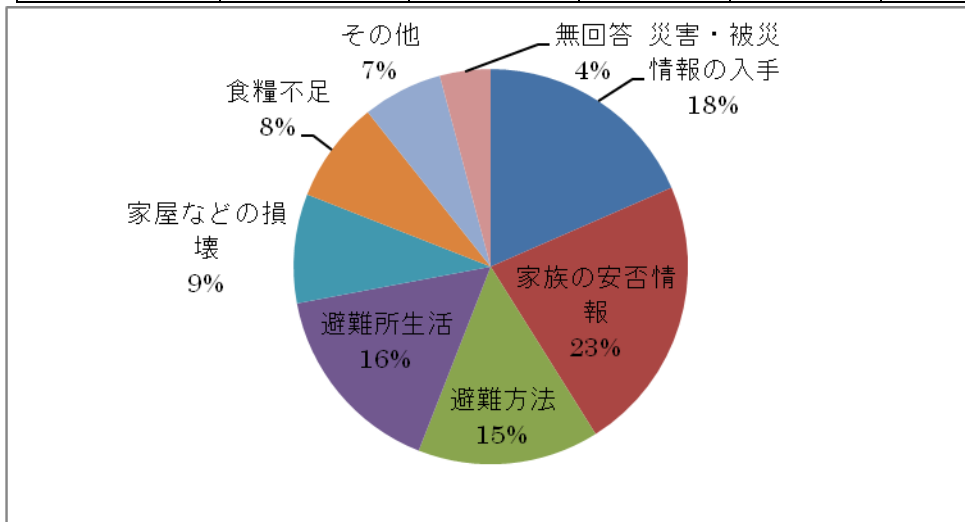
※82%の方が「満足」または「だいたい満足」と回答。

[主なご意見・ご感想]

- ・ 大変貴重な話や情報が聞け、とても有意な時間が過ごせた。
- ・ 要援護者台帳について課題が多い中、大変参考になった。
- ・ 次にどう進むか、自分たちにできることが見えるともっとよかった。

問3 災害時に不安を感じることはなんですか。(複数回答可)

災害・被災情報の入手	家族の安否情報確認	避難方法	避難所生活	家屋などの損壊	食糧不足	その他	無回答
31	38	25	27	15	14	11	7



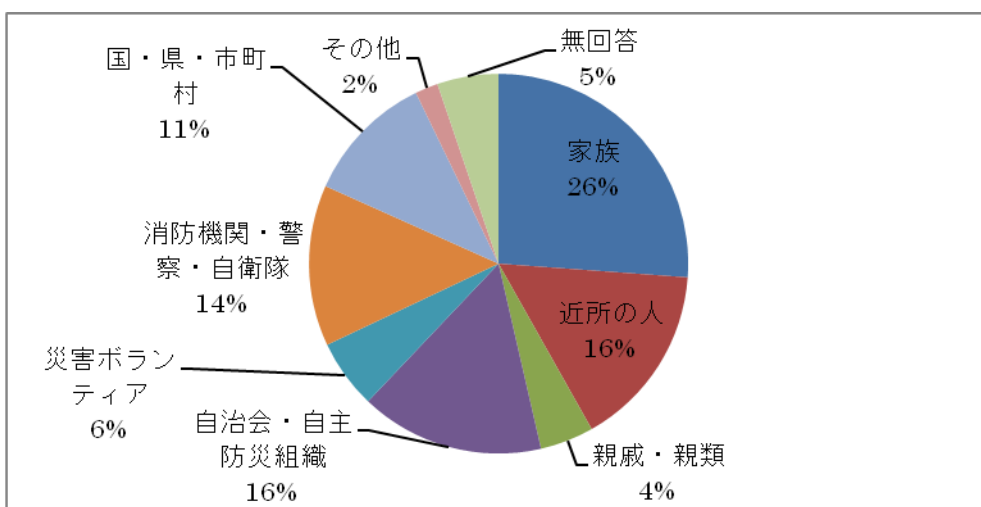
※「家族の安否情報確認」や「災害・被災情報の入手」など、災害時の情報収集に不安を感じる方が多いことが読み取れます。

[その他の主なご意見]

- ・障害の子どもと別々の場所に居た時のことを思うと不安。
- ・今回の災害では行政の対応の遅さに大変不安を感じたので、いかに自己防衛していかなければならないかを考えさせられた。
- ・人工呼吸器をつけて在宅生活をしており、災害時に電源が確保できるか心配。

問4 災害時に支援を期待する人は誰ですか。(上位3つまで)

家族	近所の人	親戚・親類	自治会・自主防災組織	災害ボランティア	消防機関・警察・自衛隊	国・県・市町村	その他	無回答
40	24	7	24	9	21	17	3	8



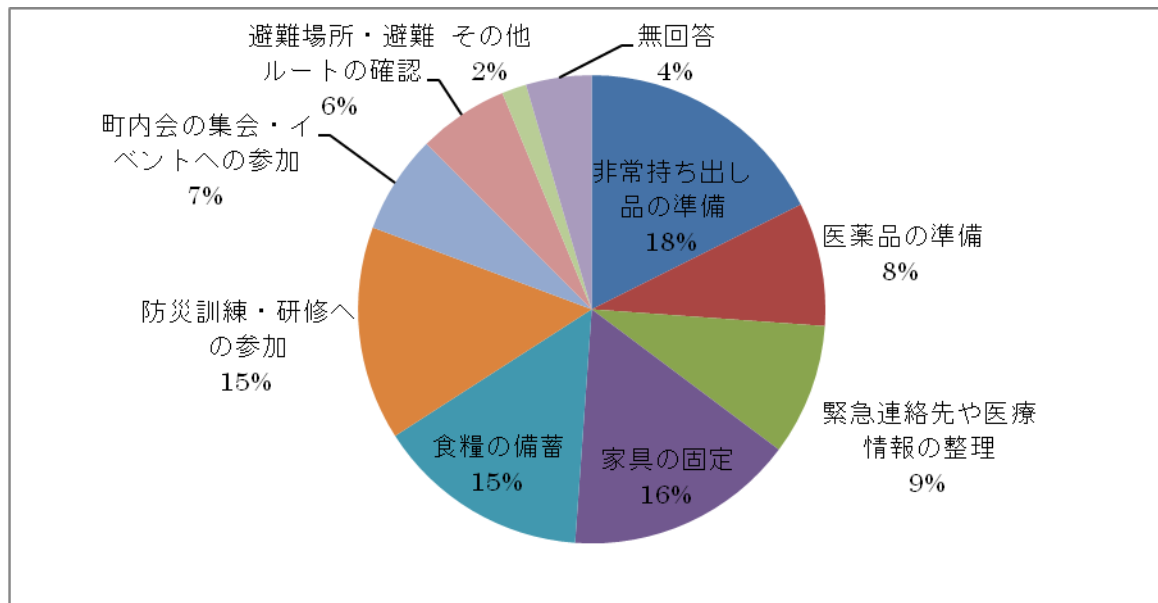
※家族の他、近所の人や自治会・自主防災組織など、地域の身近な人に支援を期待する方が多くなっています。

[その他の主なご意見]

- ・医療的ケアが必要なので、訪問看護の看護師さん他、医療スタッフにも支援していただきたい。
- ・病院、友人や障害者団体。

問5 日頃から行っている防災対策はありますか（複数回答可）

非常持ち出し品の準備	医薬品の準備	緊急連絡先や医療情報の整理	家具の固定	食糧の備蓄	防災訓練・研修への参加	町内会の集会・イベントへの参加	避難場所・避難ルートの確認	その他	無回答
31	15	16	28	26	26	12	11	3	8



※非常持ち出し品の準備や家具の固定などの割合が高く、自宅における対策は進んでいる一方、町内会の集会・イベントへの参加や、避難場所・避難ルートの確認の割合が低く、地域での交流や避難行動の確認があまりされていないことが読み取れます。

[その他の主なご意見]

- ・居住地校交流を通して、地域の人に子どもが障害を持っていることを知ってもらえるようにしている。
- ・障害児の親の会等での情報交換を行っている。
- ・町内会のイベントがなく、転入者なので、障害のある子（21才）のデビューのチャンスがない。

問6 その他、ご意見・ご感想

- ・ いつ何があるか分からないので日常に何をしなければならないか、いかに自己防衛していくのかを考えるにあたり、参考になる話を聞いたので非常に良かったと思う。
- ・ 日頃の取組がいかに大切か、また、それを他の方にも伝えていかなければという思いを新たにしました。
- ・ リアルな話を聞いて良かった。準備が大切だと改めて感じた。
- ・ 地域の防災訓練に障害者も参加する必要性を感じた。
- ・ 年度内に改正が予定されている「災害時要援護者避難支援の手引き」や「避難所運営の手引き」に期待する。
- ・ マニュアルの市町村への徹底をお願いしたい。
- ・ 要援護者の名簿の把握について成功例を聞いたかった。（問題が多いただけではわからない。）
- ・ とても良いフォーラムなのに、参加者が少ないのが残念。
- ・ 毎年あると少し気持ちが引き締まる。
- ・ 行政の理解は進んでいるが、一般県民の障害者に対する理解はまだまだのような気がする。今日のようなフォーラムを県内各地で開催して、啓発に努める必要性を強く感じる。